

未来がん医療プロフェッショナル養成プラン 東京薬科大学 事業進捗状況報告



東京薬科大学薬学部
臨床薬剤学教室
教授 下枝貞彦

はじめに

「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」は2年目の活動が修了いたします。本事業の初年度となった2017年度は、緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ）とゲノム医療者養成コース（大学院）において、平成29年度臨床腫瘍薬学特論プレ講座を実施しました。プレ講座であったにもかかわらず、第1回（2講義）参加人数16名（うち薬剤師5名、学部生11名）、第2回（2講義）参加人数19名（うち薬剤師7名、学部生11名）、第3回（3講義）参加人数23名（うち薬剤師5名、学部生18名）、第4回（2講義）参加人数12名（うち薬剤師4名、学部生8名）・サテライト長野会場参加人数3名（うち薬剤師3名）、以上のべ73名参加の受講者を得ることができました。

事業2年目となる2018年度は、薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コースに、「臨床腫瘍薬学特論」という講座を新規開講いたしました。本講座はゲノム医療者養成コース推奨講義と緩和ケア医療者養成コース推奨講義から構成され、2018年度は9月より随時、本学教員や多彩な外部講師を招聘し、がんゲノム医療における基礎医学の領域や、がん緩和ケアの領域に特化した人材育成を実施して参りました。「臨床腫瘍薬学特論」で特筆すべき点は、本事業予算により新規導入された遠隔地会議誌システムを使用することで、本学と連携大学や地域基幹病院を結び、講師や受講者の負担を軽減する取り組みを積極的に行ったことです。その方法が功を奏し、第1回目から第15回目までの講義では博士課程大学院生17名、修士課程大学院生1名、学部生32名、医師6名、薬剤師66名（うちサテライト受講者58名）のべ122名の受講者を、さらに進歩の著しいがん医療に対応すべきUp to Date特別補講5講を開講しのべ27名の受講者を、それぞれ得ることができました。

本事業の教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想は、ゲノム医療者養成コースではがん専門薬剤師、大学教員を、緩和ケア医療者養成コースでは緩和薬物療法認定薬剤師、緩和ケアに特化した薬剤師を想定しており、次年度以降のさらなる発展が期待されるところです。

2019年3月

東京薬科大学薬学部 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン事業
主担当教授・がん専門薬剤師 下枝 貞彦



本事業終了後の達成目標

ゲノム医療者養成コース修了者

- 本学基礎系教室で得られた知見を基礎研究者と協働し、臨床現場で応用できる薬剤師として活躍できる知識や技術を修得させる。
- 薬学的見地から臨床現場で得られたクリニカルクエストをリサーチクエストに組換え、基礎系教室にて自らが探索研究を行い解決できる能力を有することで、プレシジョンメディシンが実践できる薬剤師育成を目指す。

緩和ケア医療者養成コース修了者

- 緩和ケア領域での薬物療法に精通した人材として、緩和ケア領域における適切な薬物療法を普及させるため臨床現場で後進の指導を行う。
- 入院から在宅療法に至るシームレスな緩和ケア薬物療法を担える薬剤師育成を目指す。



教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想

ゲノム医療者養成コース

- がん専門薬剤師
- 大学教員

緩和ケア医療者養成コース

- 緩和薬物療法認定薬剤師等
- 緩和ケアに特化した薬剤師
- 緩和ケア分野認定看護師
- がん化学療法看護分野認定看護師
- 癌性疼痛看護分野認定看護師
- 乳がん看護分野認定看護師
- がん放射線療法分野認定看護師
- 専門作業療法士（がん分野）
- がん病態栄養専門管理栄養士



事業工程計画

	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
ゲノム医療者 養成コース	受け入れ準備	新規受入れ：2名 (薬剤師)	→		
緩和ケア医療者 養成コース	受け入れ準備	大学院 新規受入れ：2名 (薬剤師) インテンスイブ新規 受入れ：5名 (薬剤 師4名、その他医療 職1名)	→		
事業の アウトプット	学内シンポジ ウム・セミ ナーの開催 数：1回、参加 予定人数50名	→			国内学会発表3 回、予定発表者 人数5名 →



教育プログラム・コースの受入目標人数

 確定

 調整中

ゲノム医療者養成コース

対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
大学院生	0	2	2	2	2	8
インテンシブ	—	—	—	—	—	0
計	0	2	2	2	2	8

緩和ケア医療者養成コース

対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
大学院生	0	2	2	2	2	8
インテンシブ	0	5	5	5	5	20
計	0	7	7	7	7	28

甲信越・東北地域における緩和薬物療法認定薬剤師、
がん専門薬剤師を計5名養成すること目標とする

東京薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程
「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」
コース履修要項

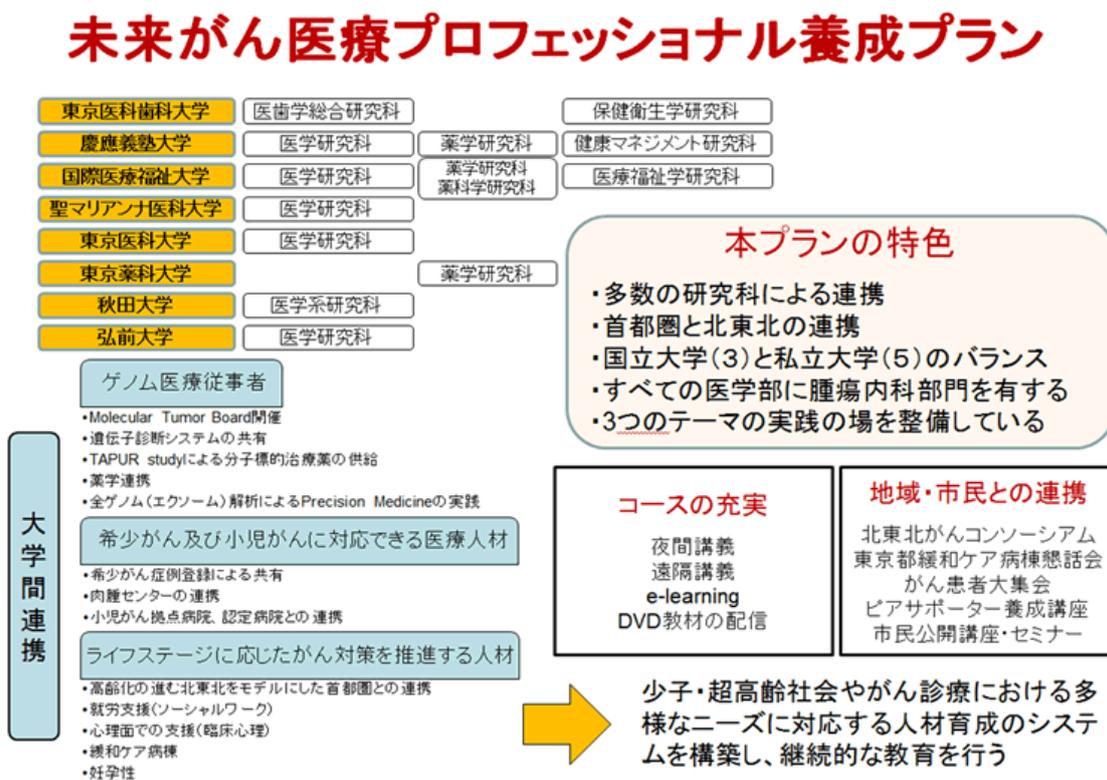
平成 30 年 4 月 1 日

東京薬科大学大学院薬学研究科

【事業の概要】

これまでに、2期にわたるがん対策推進基本計画と併走する形で、がんプロフェッショナル養成プラン、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランが実施されました。特に後者によって多くの医学部に化学療法、緩和ケア、地域医療などの講座が新設され、従来の診療科を横断する人材養成体制の構築と全国的ながん教育の均質化が整備されてきました。本プランは、これまでに養成した人材およびシステムを最大限に活用し、さらに新たな枠組みによって未来志向のがん医療者を養成することを目的に計画したものです。本プランの特徴は、「連携」と「実践」であり、すなわち、各々の大学が各自のネットワークを利用し、さらに構成8大学間での密な連携を構築することによって、がんゲノム、小児がん、希少がん、多様なライフステージへの対応などについてのコースワークに加えて、実践の場所を大学間で補完し実効性を伴う人材育成が可能となるように設計しています。

【概要図】



【東京薬科大学の開講コース】

1. 緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ）

<対象者>

大学院

薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生

インテンシブ

薬剤師および訪問看護師、ケアマネージャー、栄養士を含むその他の医療人

<修業年限（期間）>

大学院 : 4年

インテンシブ : 4年を目途とする

<養成すべき人材像>

- ① がん薬物療法の支持療法としての緩和ケア（非がん疾患の緩和ケアとの比較も含めて）を理解し、最新のがん薬物療法における知見を踏まえた緩和ケアを実践できる薬剤師
- ② 様々な年齢（小児、AYA世代、高齢者など）、場面（在宅、緩和ケア病棟、外来、就労など）における緩和ケアについて理解し、薬物療法における処方提案や職種間連携体制を構築できる薬剤師
- ③ 職種横断的な部門の構成員として、がん治療を俯瞰しマネジメントを行うことができる薬剤師

<修了要件・履修方法>

大学院

各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること

インテンシブ

所定の講義科目6単位の履修（実習科目の選択も可能）2単位程度をゲノム医療者養成コースまたは緩和ケア医療者養成コース（インテンシブ）に充てる。本学薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生に対する認定制度に準拠した履修者の評価を行い、コース修了後は本学薬学研究科より修了証を発行する。

<履修科目等>

大学院

《必修科目》がん薬物療法の実習（連携大学医学部附属病院における見学実習）2単位を含む所属分野の必修26単位

《選択科目》医薬品情報学、薬物治療学（がんのシステム生物学概論、抗がん剤薬理学概論、緩和ケア、がん臨床研究 等）から4単位

インテンシブ

《選択科目》医薬品情報学、薬物療法学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位

<指導体制：大学院>

本学大学院の緩和医療実践分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。東京医科歯科大学医学部附属病院緩和ケア病棟で本学大学院生を対象とした2～4週間の臨床実習を実施する。臨床実習では緩和ケアの実践を学び、薬物療法の現状を踏まえた専門薬剤師としての素養を身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象とした緩和ケアの基礎から臨床までの講義を受講させ、緩和ケアに関する幅広い知識を修得させる。

<指導体制：インテンシブ>

本学大学院の緩和医療実践分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。臨床実習では緩和ケアの実践を学び、薬物療法の現状を踏まえた専門薬剤師としての素養を身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象とした緩和ケアの基礎から臨床までの講義を受講させ、緩和ケアに関する幅広い知識を修得させる。

<教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想>

緩和ケアに従事する薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師等）

<受入開始時期>

平成30年4月

2. ゲノム医療者養成コース（大学院）

<対象者>

大学院

薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生

<修業年限（期間）>

大学院 : 4年

<養成すべき人材像>

- ① がんゲノム医療における基礎医学の知識を身につけ、トランスレーショナルリサーチの現場で基礎研究者と協働できる薬剤師
- ② プレシジョンメディシンの実践において、ゲノム診断の結果を適切に解釈し治療に反映することのできる薬剤師（Molecular Tumor Board 構成メンバー等）
- ③ プレシジョンメディシンの実践において、患者・家族に対して適切な情報提供・共有をし、治療を継続できる薬剤師

<修了要件・履修方法>

大学院

各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること

<履修科目等>

大学院

《必修科目》がん薬物療法の実習（連携大学医学部附属病院における見学実習）2単位を含む所属分野の必修26単位

《選択科目》医薬品情報学、薬物治療学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位

<指導体制：大学院>

本学大学院のがん化学療法分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。また、連携大学である東京医科大学は本学姉妹校であり、同大学附属病院の10の診療科を中心に、本学大学院生を対象とした2～4週間の臨床見学実習を実施している。これらの診療科にてがん治療の実践を学び、もって専門薬剤師としての素養を学生に身に付け

させる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象としたがん治療の基礎から臨床までの講義を受講させ、がん治療に関する幅広い知識を修得させる。

<教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想>
がん専門薬剤師

<受入開始時期>
平成 30 年 4 月

【コースの履修について】

文末にある「コース履修申請書」を東京薬科大学薬学事務課に提出する

【問い合わせ先】

〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1

東京薬科大学 薬学事務課 大学院担当

TEL : 042-676-7312 (ダイヤルイン) Mail : ygakuji-ml@toyaku.ac.jp

東京薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程
「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」
コース履修申請書

申請日 : _____

学生番号 : _____

氏名 : _____

所属 : _____

連絡先（携帯） : _____

連絡先（メールアドレス） : _____

	緩和ケア医療者養成コース（大学院生）
	緩和ケア医療者養成コース （インテンシブコース）
	ゲノム医療者養成コース（大学院生）

※希望するコースに「○」印を記入

東京薬科大学薬学事務課大学院担当

Mail : ygakuji-ml@toyaku.ac.jp

TEL : 042-676-7312

がんプロシラバス

種別:化学療法

科目名:がん化学療法特論(基礎と臨床)

(Advanced Topics in Anticancer Chemotherapy: Basic and Clinical Sciences)

注) この講義は東京薬科大学からの遠隔講義となります。

1. 担当教員

科目担当責任教員:

平野 俊彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授

科目担当教員:(講義順)

平野 俊彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授

杉浦 宗敏 東京薬科大学大学院薬学研究科 医薬品安全管理学教室 教授

下枝 貞彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬剤学教室 教授

2. 主な講義場所

大学院講義室3(東京薬科大学医療薬学研究棟3階講義室より M&D タワー11階へ遠隔講義配信)

3. 授業目的・概要等

授業目的

がん化学療法の基礎と臨床について、その現状を理解させると共に、問題点や課題を克服するための対処法や、今後の研究に関する考え方を修得させる。

概要

がん化学療法の実際とその科学的基盤について概説する。講師陣は、いずれも薬学部出身の教授で、薬剤師でもある。がん化学療法の基盤となっている臨床薬理学も分かり易く解説するとともに、がん化学療法のチーム医療における薬剤師の役割について幅広い活動を紹介する。

4. 授業の到達目標

がん化学療法の実際とその科学的基盤について説明できる。がん化学療法の基盤となっている臨床薬理学と時間薬理学について説明できる。がん化学療法のチーム医療における薬剤師の役割について概説できる。

5. 授業の方法

講義形式による。

6. 授業内容

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	11月19日(月)1時限目	がん化学療法の基礎:特徴と問題点	平野 俊彦	hiranot@toyaku.ac.jp
2	11月19日(月)2時限目			
3	11月20日(火)1時限目	がん化学療法の臨床薬理学と時間薬理学	平野 俊彦	hiranot@toyaku.ac.jp
4	11月20日(火)2時限目			
5	11月21日(水)1時限目	がん化学療法と緩和医療	杉浦 宗敏	msugi@toyaku.ac.jp
6	11月21日(木)2時限目			
7	11月22日(金)1時限目	がん専門薬剤師が関わるチーム医療	下枝 貞彦	shimoeda@toyaku.ac.jp
8	11月22日(金)2時限目			

7. 成績評価の方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

8. 準備学習などについての具体的な指示

総合基礎および抗がん剤薬理学概論 I、II で習った内容について、ざっとおさらいをしておいてください。

9. 参考書

講義によってプリント等を配布する場合がある。筆記用具のみ持参。

10. 履修上の注意事項

11. オフィスアワー

毎週金曜日午後 14:00~16:00

科目責任者:平野俊彦 東京薬科大学臨床薬理学教授室(東京薬科大学医療薬学研究棟2階)

12. 備考



緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ） ゲノム医療者養成コース（大学院）

平成29年度臨床腫瘍薬学特論プレ講座

科目担当責任教員：下枝 貞彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 教授

平成30年2月3日（土）

日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長

がん指導薬剤師

東京薬科大学 客員教授

高瀬 久光 先生

「がん患者 ロジカル・トータルサポート」

羽島市民病院 薬剤部主幹

日本糖尿病療養指導士

西村 英尚 先生

「糖尿病とがん罹患リスク」

平成30年2月24日（土）

東京薬科大学 客員教授

山田 陽城 先生

「がん治療における漢方薬の役割」

山梨県立中央病院 薬剤部 主任薬剤師

花輪 和己 先生

「臨床腫瘍薬学分野における感染制御と救急医療」

平成30年3月3日（土）

東京薬科大学大学院薬学研究科 博士課程大学院生

高木 千明 氏

「東京医科大学病院 血液内科における臨床研修報告」

東京薬科大学薬学部 医薬品安全管理学教室

清海 杏奈 先生

「乳癌の個別化治療に関する基盤研究」

国立研究開発法人 国立がん研究センター

分子細胞治療研究分野 特任研究員

田所 弘子 先生

「プレシジョンメディシンの実践に必要ながんゲノム医療の基礎知識」

平成30年3月10日（土）

武蔵野赤十字病院 腫瘍内科部長

中根 実 先生

「虚弱高齢者に対する大腸がん薬物療法」

長野赤十字病院 薬剤部

がん指導薬剤師 がん専門薬剤師

若林 雅人 先生

「胃がんにおける抗がん薬の副作用マネジメントの実際」

東京薬科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

ゲノム医療者養成コース・緩和ケア医療者養成コース プレ講座

平成29年度 臨床腫瘍薬学特論

会場：東京薬科大学薬学部医療棟2階M201講義室（全日程共通）



- ・ JR中央線「豊田駅」南口下車、スクールバス8分
- ・ 京王線「平山城址公園駅」下車
バス約8分または徒歩約18分
- ・ 京王相模原線「京王堀之内駅」下車、バス約8分

平成30年2月3日（土）

13:00～14:30

日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長 **がん指導薬剤師**

東京薬科大学 客員教授

高瀬 久光 先生

「がん患者 ロジカル・トータルサポート」

14:40～16:10

羽島市民病院 薬剤部主幹

日本糖尿病療養指導士

西村 英尚 先生

「糖尿病とがん罹患リスク」

平成30年2月24日（土）

13:00～14:30

東京薬科大学 客員教授

山田 陽城 先生

「がん治療における漢方薬の役割」

14:40～16:10

山梨県立中央病院 薬剤部 主任薬剤師

花輪 和己 先生

「臨床腫瘍薬学分野における感染制御と救急医療
～適正な治療薬と投与量について～」

平成30年3月3日（土）

13:00～13:30

東京薬科大学大学院薬学研究科 博士課程大学院生

高木 千明 氏

「東京医科大学病院 血液内科における臨床研修報告」

13:30～14:30

東京薬科大学薬学部 医薬品安全管理学教室

清海 杏奈 先生

「乳癌の個別化治療に関する基盤研究～主作用と副作用
の観点から～」

14:40～16:10

国立研究開発法人 国立がん研究センター

分子細胞治療研究分野 特任研究員

田所 弘子 先生

「プレジジョンメディシンの実践に必要ながんゲノム医療
の基礎知識」

平成30年3月10日（土）

13:00～14:30

武蔵野赤十字病院 腫瘍内科部長

中根 実 先生

「虚弱高齢者に対する大腸がん薬物療法」

14:40～16:10

長野赤十字病院 薬剤部

がん指導薬剤師 がん専門薬剤師

11 若林 雅人 先生

「胃がんにおける抗がん薬の副作用マネジメントの実際」

参加申し込み・お問い合わせ先

〒192-0392

東京都八王子市堀之内1432-1

東京薬科大学薬学部 臨床薬剤学教室 下枝 貞彦

TEL・FAX 042-676-6697 shimoeda@toyaku.ac.jp

 **東京薬科大学**



緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ） ゲノム医療者養成コース（大学院）

平成30年度臨床腫瘍薬学特論

科目担当責任教員：下枝 貞彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 教授

- ①平成30年9月14日（金）18時30分～20時00分
東京薬科大学 客員教授
立川 英一 先生
「抗がん剤の薬理作用」
- ②平成30年9月21日（金）18時30分～20時00分
東京女子医科大学 名誉教授・東京薬科大学 客員教授
川島 眞 先生
「分子標的薬によるがん患者の皮膚障害ケア」
- ③平成30年9月28日（金）18時30分～20時00分
（一社）日本薬局協会の長野支部漢方講座主宰タカハシ薬局
高橋 敏 先生
「緩和ケア領域で期待される漢方治療」
- ④平成30年10月5日（金）18時30分～20時00分
杏林大学医学部付属病院 薬剤部
畔蒜 祐一郎 先生
「深在性真菌症に対する個別化治療」
- ⑤平成30年10月13日（土）15時00分～16時30分
長野赤十字病院 がん専門看護師
上野 恵美子 先生
「造血器腫瘍に対するがん専門看護師の役割」
- ⑥平成30年10月19日（金）18時30分～20時00分
武蔵野赤十字病院 輸血部長
高野 弥奈 先生
「造血器腫瘍に対するゲノム治療」
- ⑦平成30年11月19日（月）18時30分～20時00分
東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授
平野 俊彦 先生
「がん化学療法の基礎：特徴と問題点」
- ⑧平成30年11月20日（火）18時30分～20時00分
東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授
平野 俊彦 先生
「がん化学療法の臨床薬理学と時間薬理学」
- ⑨平成30年11月21日（水）18時30分～20時00分
東京薬科大学大学院薬学研究科 医薬品安全管理学教室 教授
杉浦 宗敏 先生
「がん化学療法と緩和医療」
- ⑩平成30年11月22日（木）18時30分～20時00分
東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授
下枝 貞彦 先生
「がん専門薬剤師による支持療法」
- ⑪平成30年11月26日（月）18時30分～20時00分
武蔵野赤十字病院 薬剤部
加藤 智之 先生
「がん領域で必要な感染症対策」
- ⑫平成30年11月30日（金）18時30分～20時00分
秋田大学医学部付属病院 薬剤部 教授・薬剤部長
三浦 昌朋 先生
「抗がん剤のTDM」
- ⑬平成30年12月7日（金）18時30分～20時00分
弘前大学医学部付属病院 薬剤部 教授・薬剤部長
新岡 丈典 先生
「がん薬物療法施行時における医薬品相互作用」
- ⑭平成31年1月11日（金）18時30分～20時00分
東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 准教授
平田 尚人 先生
「薬剤師によるCardio-Oncologyの実践」
- ⑮平成31年2月16日（土）15時00分～16時30分
国立がんセンター東病院 薬剤部
金子 明日美 先生
「がんゲノム治療における薬剤師の役割」

東京薬科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

ゲノム医療者養成コース・緩和ケア医療者養成コース

平成30年度 臨床腫瘍薬学特論

会場：東京薬科大学医療薬学研究棟3階講義室ほか（日程により変更）



- ・JR中央線「豊田駅」南口下車、スクールバス8分
- ・京王線「平山城址公園駅」下車
バス約8分または徒歩約18分
- ・京王相模原線「京王堀之内駅」下車、バス約8分

平成30年9月14日（金）18時30分～20時00分

東京薬科大学 客員教授
立川 英一 先生
「抗がん剤の薬理作用」

平成30年9月21日（金）18時30分～20時00分

東京女子医科大学名誉教授・東京薬科大学客員教授
川島 眞 先生
「分子標的薬によるがん患者の皮膚障害ケア」

平成30年9月28日（金）18時30分～20時00分

（一社）日本薬局協会の会長野支部漢方講座主幸タカハシ薬局
高橋 敏 先生
「緩和ケア領域で期待される漢方治療」

平成30年10月5日（金）18時30分～20時00分

杏林大学医学部付属病院 薬剤部
畔蒜 祐一郎 先生
「深在性真菌症に対する個別化治療」

平成30年10月13日（土）15時00分～16時30分

長野赤十字病院 がん専門看護師
上野 恵美子 先生
「造血器腫瘍に対するがん専門看護師の役割」

平成30年10月19日（金）18時30分～20時00分

武蔵野赤十字病院 輸血部長
高野 弥奈 先生
「造血器腫瘍に対するゲノム治療」

平成30年11月19日（月）18時30分～20時00分

東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授
平野 俊彦 先生
「がん化学療法の基礎：特徴と問題点」

平成30年11月20日（火）18時30分～20時00分

東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授
平野 俊彦 先生
「がん化学療法の臨床薬理学と時間薬理学」

平成30年11月21日（水）18時30分～20時00分

東京薬科大学大学院薬学研究科 医薬品安全管理学教室 教授
杉浦 宗敏 先生
「がん化学療法と緩和医療」

平成30年11月22日（木）18時30分～20時00分

東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬剤学教室 教授
下枝 貞彦 先生
「がん専門薬剤師による支持療法」

平成30年11月26日（月）18時30分～20時00分

武蔵野赤十字病院 薬剤部
加藤 智之 先生
「がん領域で必要な感染症対策」

平成30年11月30日（金）18時30分～20時00分

秋田大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長
三浦 昌朋 先生
「抗がん剤のTDM」

平成30年12月7日（金）18時30分～20時00分

弘前大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長
新岡 丈典 先生
「がん薬物療法施行時における医薬品相互作用」

平成31年1月11日（金）18時30分～20時00分

東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬剤学教室 准教授
平田 尚人 先生
「薬剤師によるCardio-Oncologyの実践」

平成31年2月16日（土）15時00分～16時30分

国立がんセンター東病院 薬剤部
金子 明日美 先生
「がんゲノム治療における薬剤師の役割」

参加申し込み・お問い合わせ先

〒192-0392

東京都八王子市堀之内1432-1

東京薬科大学薬学部 臨床薬剤学教室 下枝 貞彦

TEL・FAX 042-676-6697 shimoeda@toyaku.ac.jp



緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ） ゲノム医療者養成コース（大学院）

平成30年度臨床腫瘍薬学特論 Up to Date 特別補講

科目担当責任教員：下枝 貞彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 教授

- ①平成31年1月9日（水）18時30分～20時00分
国立研究開発法人 国立がん研究センター 分子細胞治療研究分野 特任研究員
田所 弘子 先生
「プレシジョンメディシンの実践に必要ながんゲノム医療の知識」
- ②平成31年1月16日（水）18時30分～20時00分
特定医療法人新生病院薬局課 課長
清原 健二 先生
「薬剤師に必要な緩和ケアの基礎知識」
- ③平成31年1月21日（月）18時30分～20時00分
医療法人愛和会 愛和病院 薬局長
萬谷 摩美子 先生
「入院患者に対する緩和医療薬学分野の基礎知識とその臨床応用」
- ④平成31年1月25日（金）18時30分～20時00分
羽島市民病院 薬剤部主幹 日本糖尿病療養指導士
西村 英尚 先生
「糖尿病とがん罹患リスク」
- ⑤平成31年1月31日（木）18時30分～20時00分
山梨県立中央病院 薬剤部 主任薬剤師
花輪 和己 先生
「臨床腫瘍薬学分野におけるがんゲノム医療の臨床」

東京薬科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

ゲノム医療者養成コース・緩和ケア医療者養成コース

平成30年度 臨床腫瘍薬学特論 Up to Date補講

会場：東京薬科大学医療薬学研究棟3階講義室ほか（日程により変更）



- ・JR中央線「豊田駅」南口下車、スクールバス8分
- ・京王線「平山城址公園駅」下車
バス約8分または徒歩約18分
- ・京王相模原線「京王堀之内駅」下車、
バス約8分

平成31年1月9日（水） 18時30分～20時00分

国立研究開発法人 国立がん研究センター 分子細胞治療研究分野 特任研究員

田所 弘子 先生

「プレシジョンメディシンの実践に必要ながんゲノム医療の知識」

平成31年1月16日（水） 18時30分～20時00分

特定医療法人新生病院薬局課 課長

清原 健二 先生

「薬剤師に必要な緩和ケアの基礎知識」

平成31年1月21日（月） 18時30分～20時00分

医療法人愛和会 愛和病院 薬局長

萬谷 摩美子 先生

「入院患者に対する緩和医療薬学分野の基礎知識とその臨床応用」

平成31年1月25日（金） 18時30分～20時00分

羽島市民病院 薬剤部主幹 日本糖尿病療養指導士

西村 英尚 先生

「糖尿病とがん罹患リスク」

平成31年1月31日（木） 18時30分～20時00分

山梨県立中央病院 薬剤部 主任薬剤師

花輪 和己 先生

「臨床腫瘍薬学分野におけるがんゲノム医療の臨床」



臨床腫瘍薬学特論 通常講義今後の予定

平成31年 1月11日（金） 18時30分～20時00分

東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬剤学教室 准教授

平田 尚人 先生

「薬剤師によるCardio-Oncologyの実践」

平成31年2月16日（土） 15時00分～16時30分

国立がんセンター東病院 薬剤部

金子 明日美 先生

「がんゲノム治療における薬剤師の役割」

13

全ての講義は遠隔地会議システム
によりリアルタイム配信されます

参加申し込み・お問い合わせ先

〒192-0392

東京都八王子市堀之内1432-1

東京薬科大学薬学部 臨床薬剤学教室 下枝 貞彦

TEL・FAX 042-676-6697 shimoeda@toyaku.ac.jp



緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ）

ゲノム医療者養成コース（大学院）

平成29年度臨床腫瘍薬学特論プレ講座

参加実績

第1回（2講義）

参加人数16名（うち薬剤師5名、学部生11名）

第2回（2講義）

参加人数19名（うち薬剤師7名、学部生11名）

第3回（3講義）

参加人数23名（うち薬剤師5名、学部生18名）

第4回（2講義）

参加人数12名（うち薬剤師4名、学部生8名）

サテライト長野会場参加人数3名（うち薬剤師3名）

以上のべ73名参加



緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ）

ゲノム医療者養成コース（大学院）

平成30年度臨床腫瘍薬学特論

参加実績（人数） のべ受講者数122名

講義	社会人 大学院	博士課程	修士課程	学部生	医師	薬剤師	うちサテライト 受講者
第1回	1	1		3		2	1
第2回		2	1	5		5	
第3回	1	1				1	1
第4回	1	1		4	1	7	10
第5回	1			3		3	2
第6回		1		1	1	3	2
第7回	1			2	2	5	7
第8回	1			1	1	4	4
第9回				1	1	11	10
第10回		1		4		3	2
第11回		1		1		3	2
第12回		1		1		6	6
第13回		1		2		8	7
第14回		1		4		5	4
合計	6	11	1	32	6	66	58



緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ）

ゲノム医療者養成コース（大学院）

平成30年度臨床腫瘍薬学特論 Up to Date 特別補講

参加実績（人数）のべ受講者数27名

講義	社会人 大学院	博士課程	修士課程	学部生	医師	薬剤師	うちサテライト 受講者
第1回				2		2	
第2回				4		1	
第3回				4		1	
第4回	1	1		4		2	1
第5回	1	1		3			
合計	2	2		17		6	1



平成30年度における連携大学薬剤師部会の活動状況

薬剤師部会構成

連携大学の事務局より本部会の委員が以下の通り選出されたとの報告を受けた。

世話人

東京薬科大学薬学部 臨床薬剤学教室 下枝 貞彦

委員

秋田大学医学部附属病院 薬剤部 三浦 昌朋 先生

慶應義塾大学 薬学部病院薬学講座 青森 達 先生

国際医療福祉大学 辻 稔 先生

聖マリアンナ医科大学 中島 貴子 先生

東京医科歯科大学 調整中

東京医科大学 宮松 洋信 先生

東京薬科大学薬学部 医薬品安全管理学教室 杉浦 宗敏 先生

弘前大学医学部附属病院 薬剤部 新岡 丈典 先生